

## 心肺蘇生法の授業による生徒の意識の変化

岸田佳子<sup>1</sup>・石本雄真<sup>2</sup>

<sup>1</sup>鳥取大学附属中学校 学校保健

<sup>2</sup>鳥取大学教員養成センター

E-mail: kishida\_yk@tottori-u.ac.jp

**KISHIDA Yoshiko<sup>1</sup> and ISHIMOTO Yuma<sup>2</sup>** (<sup>1</sup>Tottori University Junior High School, <sup>2</sup>Tottori University Teacher Education Center): **Changes in Students' Awareness in Cardiopulmonary Resuscitation Classes.**

**要旨** — 本校では、毎年心肺蘇生法と AED の使用法についての授業を行っている。授業中の生徒の意欲は高く、バイスタンダーとしての意識が高まり、いのちについて考える機会ともなると感じている。しかし、心肺蘇生に対する意欲は一時的なものかもしれない。また、本校は医療系への進路を考えている生徒が多くいるため、そのような進路を考え医療に対する興味や関心が強い生徒達は、意識や意欲の高まりが大きいのではないかと考えた。そこで本研究は、授業前後と、授業 1 ヶ月後にアンケートを行い、心肺蘇生法に対する意欲や意識の変化について分析した。また、生徒の授業の様子や感想を分析した。そして、進路として医療系や救命処置への意識について、関心あり、関心なしの 2 群に分け意欲や意識の変化に違いがあるかについて分析した。その結果、本校の心肺蘇生法の授業は生徒の心肺蘇生に対する意欲や意識を高める効果があり、その変化は 1 ヶ月後も継続していることがわかった。また、医療系への進路に対する関心あり、なしでは心肺蘇生法に対する意欲や意識は変わらないことがわかった。

**キーワード** — 心肺蘇生法, 中学生, 意識の変化, AED

**Abstract** — At our school, we conduct classes on CPR and the use of AED every year. The students are highly motivated during the class, and we feel that the class increases their awareness as bystanders and provides an opportunity for them to think about life. However, the motivation for CPR may be temporary. Since many of our students are considering careers in the medical field, we felt that students who have a strong interest in medicine and are considering such a career path would better understand and be more motivated by the program. Therefore, this study conducted a questionnaire before and after the class and one month after the class to analyze changes in motivation and awareness toward CPR. We also analyzed the students' impressions of the class. The students were divided into two groups: those who were interested and those who were not interested in medical careers and lifesaving procedures, and we analyzed whether there were any differences in their motivation and awareness. The results showed that our CPR classes were effective in increasing students' motivation and awareness of CPR, and that these changes continued after one month. The results also showed that the students' motivation and awareness of CPR did not change depending on whether they were interested or not in pursuing a career in medicine.

**Key words** — CPR, middle school students, change in awareness, AED

### 1. はじめに

#### 1.1. 問題と目的

平成 29 年度告示の学習指導要領(保健体育科)には、「傷害の防止」について「胸骨圧迫、AED 使用等の心肺蘇生法などを取り上げ、実習を通して応急手当ができるようにする。」と明記されている。しかし、文部科学省が実施した「学校安全の推進に関する計画に関わる取り組み状況調査」(令和 3 年)によると、実際に AED の使用を含む応急手当の実習を行っている中学校は 61.6% であった。日本学校保健会が実施した「学校における心肺蘇生と AED に関する調査報告書」(平成

30 年)によると、生徒を対象とした心肺蘇生法や AED の指導を実施するための課題として、講習時間の確保や、訓練用資機材の不足、指導者の不在などが多くあげられていた。

清村ら(2013)によれば、中学生は心肺蘇生法教育をきっかけとし、① CPR の知識・技術の習得② 救急医療の現状への課題の理解③ 自らがバイスタンダー(その場に居合わせた人)となることへの実感等の現実的な認識に加え、④ いのちや人との繋がりについて深慮していた。

本校では毎年養護教諭と保健体育教員、地域の看護師が協力して、2 年生に心肺蘇生法と

AED の使用法についての授業を行っている。授業中の生徒の意欲はとても高く、授業後の感想にはバイスタンダーになったときに自分が取りたい行動についての記述や、いのちの大切さを実感したという意見が多数みられる。深山 (2018) は、BLS (一次救命処置) 講習によって、心肺蘇生・AED が実施できるという自信度が高まり、難しさや不安が低下し、BLS 自己効力感が高まったと述べている。本校でも同様に感じているが、このような意識の変化は一時的なものかもしれない。

また、本校は医療系の学校への進学を考えている生徒が多くおり、そのような生徒は変化の傾向が異なるのではないかと考えた。

そこで本研究は、本校が行っている心肺蘇生法の授業が生徒の行動や思考に影響があったのか、生徒の授業の様子や感想を分析する。また、アンケートを授業前後と、授業1ヶ月後に行い、救命処置についての意識に変化がみられたかどうかについて分析する。そして、進路として医療系に関心あり、関心なしの2群に分け意識の変化に違いがあるかについて分析する。

今回行った授業については、本年度の本校全体の研究主題である「他者と関わり合う力」「当事者意識」を育む事を意識した活動を取り入れるよう計画した。

## 2. 研究方法

### 2.1. 対象及び時期

第2学年139名(4クラス、男子64名女子75名)を対象とした。2023年11月17日に2時間続きの保健体育の授業を、2クラス合同で実施した。

授業の内容は、大阪ライフサポート協会 PUSH PROJECT の PUSH コース(胸骨圧迫とAEDを中心とした内容)を基にアレンジした。

心肺蘇生法の授業を受けた生徒は、117名であった。アンケート調査の有効回答数は、授業に参加し、アンケート調査の全ての内容に回答が得られた97名(70%)であった。回答数が少なくなったのは、3回のアンケートの中でインフルエンザに罹患し欠席した生徒がいたためである。

### 2.2. アンケート調査方法

自作の質問紙を作成し、心肺蘇生法授業の授業3日前と授業直後、授業1ヶ月後にアンケート調査を行った。質問項目(表1)。

心肺蘇生法への意欲については「あなたの目の前で人が倒れた時、次のような行動をとる自信がありますか」の問いに対して心肺蘇生の手順による6項目の問いを作成し、4「自信がある」3「少し自信がある」2「あまり自信がない」1「まったく自信

がない」の4択で回答を求めた。また、過去に心肺蘇生法の講習を受けた回数も聞いた。そして「救命処置について関心がありますか」「進路として医療系に関心がありますか」という質問項目を設け、4「とてもある」3「ややある」2「あまりない」1「まったくない」の4件法で回答を求めた。また、「他にも学んでみたい救命処置がありますか」という自由記述欄を設けた。

表1 アンケート調査の質問項目

No.	質問項目
	1~6について「あなたの目の前で人が倒れた時、次のような行動をとる自信がありますか」
1	周囲の人に「助けてください」と協力を求めることができますか
2	救急車を呼ぶ
3	AEDを持つてくる
4	倒れた人の呼吸を確認する
5	倒れた人に胸骨圧迫を行う
6	倒れた人にAEDを使用する
7	救命処置について関心がありますか
8	進路として医療系に関心がありますか
9	今まで心肺蘇生法の講習を受けたことがありますか
10	他にも学んでみたい救命処置がありますか

## 3. 実践内容

### 3.1. 授業計画

メッセージビデオ視聴を含む実技を70分行った後、質問と教師・看護師からの言葉を伝える時間を設け、その後代表生徒がお礼の言葉を述べた。10分間休憩し、教室で感想とアンケート記入の時間を取った。(表2)

授業内容は、教材として大阪ライフサポート協会が作成したDVDと心肺蘇生訓練用キット(あっぱくん)を使用し、実技演習を行った。(図1)心肺蘇生訓練用キットは、1人が1台使用した。実習中のペア活動は教室の席順の男女ペアで行った。

インストラクターは養護教諭が行い、AEDの説明は看護師が行った。心肺蘇生法の手順毎に、動画視聴した後、養護教諭の説明と共に保健体育教員2名が模範実技を見せ、手順を細かく確認した。3名の看護師は、生徒間を周り個別に指導を行った。



図1 授業の様子

表2 授業計画

時間	学習の内容
1	挨拶・紹介 メッセージビデオ 119番とAEDの要請 心停止の認識 胸骨圧迫(心臓マッサージ)練習
2	AEDの説明と練習 胸骨圧迫とAEDの練習 (映像を見ながら一緒に行う。) 質問 看護師・教師からの言葉 生徒からのお礼の言葉 休憩後 教室で振り返り用紙とアンケートの記入

### 3.2. 授業の工夫

- ① DVDで確認の指示がある毎に映像を止め、保健体育教員が動作を再現し生徒がその動作を実践した。特に胸骨圧迫を行う際は、全員で、手を置く位置や、重ね合わせた掌の付け根で押す、肘が伸びているか、足が開いているか、心肺蘇生訓練用キットの音が鳴っているか、リズムはどうか等、細かく動作のポイントを確認した。
- ② ペアになり相手が上手くできているか、互いにアドバイスをしあったり、励まし合ったりしながら2分ずつ胸骨圧迫練習を行った。
- ③ 胸骨圧迫を交代しながら行う方法を見せ、胸骨圧迫を30秒して交代する練習をペアで4回繰り返した。
- ④ 教師、看護師が心肺蘇生についての経験や思いを生徒に話した。

## 4. 結果と考察

### 4.1. 生徒の様子

授業は、まずメッセージビデオ視聴から始めた。ビデオでは、心臓突然死で亡くなった子どもの事例や、AEDを使用し助かった人の言葉を紹介し、実際にAEDを使っている場面を視聴した。始まってすぐに、教室は静まりかえり、生徒は真剣な面持ちでビデオを観ていた。事前に、ビデオ視聴中に気持ちが辛くなった場合は、目を閉じたり、後ろの先生のところに来たりするように伝えていたが、今回はそのような生徒はいなかった。

その後、DVDを動作毎に停止しながら、保健体育教員が動作を再現し生徒がその動作を実践した。最初は恥ずかしがる生徒もいたが保健体育教員の動きをしっかりと見て、よく真似ていた。

次に、ペアになり胸骨圧迫の練習を行った。生徒は、互いの手技についてアドバイスをし合っていた。胸骨圧迫を2分続けて行うことは、かなりの力が必要であり疲労を感じるため、見ている側の生徒がかけ声や励ましの言葉をかけていた。また、生徒の近くにいる教員や看護師が、上手くできない生徒に対してアドバイスをしたり、励ましたりした。このことは生徒がペアの相手にどのような言葉をかければよいかの見本となり、生徒はそれを真似て声をかけ合っていた。また、自分達で説明を思い出しながら教え合っている姿も見られた。

その後、胸骨圧迫を交代しながら行った。胸骨圧迫のペア活動は、心肺蘇生は一人でするととても大変で、協力して行なう必要があるという意識を高めることに効果的だったと考える。

次に、DVD内のドラマに従って、心肺蘇生法の一連の流れを行う実践練習を行った。一度ドラマを見た後、ペアの中で助けを呼びAEDを持ってくる役と、胸骨圧迫を行う役を決め、胸骨圧迫は途中で交代するように伝えた。生徒は、ドラマを見ながら自分たちも必死に心肺蘇生等の動作を行っていた。やる事が次々とあり、緊張するし、必死だったという声が聞かれた。また、最後の看護師と教師の話も、静かに真剣に聞いていた。

このように生徒達は心肺蘇生法の授業をとても真剣に、生徒同士で協力しながら受けていた。

### 4.2. 生徒の感想から

感想を大きく6つの種類に分けて考察する。(表3・4)まず、いのちについての感想は「最初のメッセージビデオをみて、自分たちと同じような年齢の若者でも、持病がなくても突然死ぬことがあることに驚いた、悲しい、怖い」という感想が多くみられた。死から遠い存在である自分たちのような中学生でも、心臓突然死がみられる場合があること。人間は誰でもいつ死ぬかわからない。だからこそ、誰もが助け合えるように心肺蘇生法やAEDの使い方について学ぶ必要がある。ということ結びつけて考えている内容が多かった。これらのことから心肺蘇生の重要性や必要性について理解できている者が多いと考える。

胸骨圧迫については、「授業後は、胸骨圧迫を続けることはとても体力がいて疲れた」、「救急車が来るまで一人でやるのは大変だと思った」という感想が多くみられた。授業の中では胸骨の位置や、掌の付け根で押すこと、リズムや力等細かく説明したので、そのことがわかりやすかったという意見が多かった。しかし、「言われたとおりにやっても、自分は力がなく押すのが難しいと思った」という感想もみられた。また、「リズムや押す力の強

さ等、手技についてペアの相手や先生に直接教えてもらって音が鳴って嬉しかった、よくわかった」という感想もみられた。ペア活動は、技術を習得する手立てとして効果的だったと思われる。そして、中学生は、正しい知識や技術への習得意欲や実践力も充分にあると感じた。

意外だったのが、「AEDの方が音声メッセージ通りに行えばよいので簡単だと思った。」「AEDはできそうだ」という感想が多かったことである。

表3 生徒の感想(1)

いのちについて
<ul style="list-style-type: none"> <li>最初のビデオでこんなにも若い人が亡くなっていることに驚いた。年は関係なく誰にでも突然死が訪れる事が怖いと思った。</li> <li>最初に心臓突然死をしてしまった方たちビデオをみて、凄く悲しい気持ちになったし、自分がそのような場面に直面したときに勇気を出してしっかり実践したいと思った。</li> <li>病気の高齢者だけではなく、元気な家族や友達、自分が急に死ぬかもしれないと思うと、人間って弱くてもろいと思った。</li> <li>心臓突然死が毎年7万人の人に起こっていることに驚いた。怖かった。学校でも100人くらいの人が亡くなっていると知って、他人事ではないと思った。</li> </ul>
胸骨圧迫について
<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返し胸骨圧迫の練習をしたので、リズムややり方を覚えることができた。</li> <li>胸骨圧迫は思ったより一回一回力を入れなくていけないし、一人で一分間で100回しないといけないのでとても疲れた。</li> <li>心臓マッサージをするときの手の形や胸を圧迫するリズムがよく分かった。</li> <li>胸骨圧迫は体重をきちんとかけないと深さが得られず音が鳴らないのでびっくりした。救急車が来るまでやらないといけないと考えるとものすごく大変なので、まわりの人と協力したい。</li> <li>胸骨圧迫はたんたんとしていけばいいと思っていたけれど、とても力を使うし続けるのがぎりぎりという感じでとても疲れた。</li> </ul>
AEDについて
<ul style="list-style-type: none"> <li>AEDで2倍も救命率が上がることに驚いた。</li> <li>AEDの使い方が分かってよかった。</li> <li>AEDがもっとたくさんいろんなところに置かれたらいいと思った。</li> <li>AEDを使えば救える命はたくさんあるので家族に伝えたい。</li> <li>普段からAEDの場所を確認したり、探しておきたい。</li> <li>AEDの使い方が思っていたよりも簡単に驚いた。</li> </ul>
これから取りたい行動について
<ul style="list-style-type: none"> <li>もし人が倒れている場面に遭遇したら、すぐに行動したい。</li> <li>目の前で人が倒れた時に冷静になることも必要だと思うので、落ち着き自分にできることを最大限したい。</li> <li>知らない人に話しかけるのが苦手なので恥ずかしがらずに助けを呼びたい。</li> <li>誰かの勇気で助けられる命があることがわかったので、私も人を助けられるような勇気のある人になりたい。</li> <li>自分が倒れたときに何もしてくれなかったら絶対に嫌だから、倒れた人の気持ちを考えて見て見ぬふりをせず命を救おうと思った。</li> <li>私は実際に心肺蘇生をやる自信がないので、胸骨圧迫をする人のサポートをしたいと思った。</li> <li>周りに人がいたら声をかけて協力したり、交代して倒れた人を助けたい。</li> <li>そういう場面に会ったときに勇気がいったりして難しいかもしれないけど、電話をかける、AEDを持ってくるなど自分ができるところをして、その人が助かるようにがんばりたい。</li> <li>もし現場にいたら、声を出すことをしっかり意識したいと思った。</li> <li>勇気を持って心肺蘇生することで生存確率が2倍に増えるので、倒れている人を見つけたら勇気を持って心肺蘇生をしたい。</li> <li>貴重な体験をさせてもらった事に感謝して、それを学んだ者として少しでも心肺蘇生を広げていこうと思った。</li> <li>いつ起きてもあり得ることなので、忘れずにいたい。</li> <li>今回の授業を受ける前はやり方を知らなかったのが不安だった。でも、授業を受けて何をすればいいか分かった。倒れた人がいる場合は協力できるようになりたい。</li> </ul>

アンケートの単純集計でも胸骨圧迫を行うことより、AEDを行うことの方が意欲の平均値が高かった。日頃からタブレットなどで器械の扱いに慣れている生徒達は、器械で行う救急対応について抵抗なく受け入れているのであろうか。あるいは、AEDを行うことで状態が悪くなることはないということをしかりと認識したということであろうか。そして、「自宅や出先の近くでAEDが置いてありそうな場所を探しておきたい」という感想もあり、バイスタンダーになることを現実的に捉えていると思われた。

わかったことについては、「自分たちのような子どもでも救命活動ができることがわかった。」「手技や死線期呼吸についてわかった。」「心肺蘇生で助かる確率やAEDで助かる確率がわかった。」等が多くみられた。

これから取りたい行動については、「胸骨圧迫まで自分でやりたい」というものも多くみられたが、「大人や救急車を呼んだり、AEDを持ってきたりするなど自分にできることをしたい」と書いてある感想も同じくらいあった。「知らない人が倒れている場面で声をかけられるかが不安だ」という感想や、「自分は胸骨圧迫するには自信がない」という感想もあった。一方、「高齢者や持病を持つ家族や知り合いのために覚えておきたい、いざというときには実践したい」というものもあった。そして、「もっと細かい部分も知りたい」、「このような場面ではどうするのか」等、手技の細かい質問が多くみられた。「他の応急手当を習いたい」という感想も見られた。これらのことから、充分に当事者意識を持って取り組み、生活に生かしていこうと実践する気持ちを持っていると考えられる。

さらに、「自分が救命活動について携われる可能性があることについてうれしい」、「命を救いたい」という決意を書いているものもあった。また、「医療

表4 生徒の感想(2)

わかったこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>見ず知らずの人でも、声をかけたり、助けたりすることは大切であるのだとわかった。</li> <li>家族や友達など大切な人を救えるので、今回知れてとてもよかった。</li> <li>心肺蘇生をすれば4倍も助かる人がいて、意外と自分たちにはできることがあるとわかった。</li> <li>誰でも助けられたり胸骨圧迫ができると知った。</li> <li>はじめは心臓マッサージやAEDをするだけでよって思っていたけれど、本当は周りの安全確認や119番などやるのがたくさんあった。</li> <li>人はいつ倒れて心肺蘇生が必要になるかわからない事が分かった。</li> <li>倒れている人がいつもとは違った呼吸をすることや、心肺蘇生法のリズム、仕方、強さなどたくさん知らないことを知った。</li> <li>動画を観ながらする事で、実際にどのように動けばいいのかイメージしながら練習することができた。</li> </ul>
医療への感謝や興味
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療の大切さを改めて感じる事ができた。</li> <li>病院で働いていたり、現場に駆けつける人はたくさん命を救ってきたんだな、すごいなと思った。</li> <li>今回の授業を通し医療に興味を持つことができた。</li> <li>人体についてのだが、災害のことなどにも興味を持った。</li> </ul>

者に対しての感謝の気持ちや尊敬の念を抱く」ものや、「自分が医療や災害について興味を持った」という感想もみられた。

このように、いのちや人との繋がりについて考えたり、進路として医療系への進学に興味を持ったりする生徒もおり、本授業は生徒の心の成長に何らかの影響を及ぼしたことが考えられる。

#### 4.3. アンケートの結果から

評価時点を独立変数、評価指数を従属変数として、反復測定による一元配置分散分析を行った。

その結果を以下に記す(表 5)。

質問 1 助けて ( $F_{(2,285)} = 10.460, p < .01$ ),  
 質問 2 救急車呼ぶ ( $F_{(2,285)} = 16.602, p < .01$ ),  
 質問 3 AED 持参 ( $F_{(2,285)} = 75.444, p < .01$ ),  
 質問 4 呼吸確認 ( $F_{(2,285)} = 19.139, p < .01$ ),  
 質問 5 胸骨圧迫 ( $F_{(2,285)} = 151.007, p < .01$ ),  
 質問 6 AED 使用 ( $F_{(2,285)} = 213.398, p < .01$ ),  
 質問 7 救命関心 ( $F_{(2,285)} = 20.216, p < .01$ ),  
 質問 8 医療関心 ( $F_{(2,285)} = 3.914, p < .05$ ),  
 に評価時点の主効果が有意であった。

各要因間の差を検討するために多重比較を行った(表 6)。質問 1, 質問 2, 質問 4, 質問 7 では授業前より授業後、授業前より 1 ヶ月後の得点が高かった。質問 3, 質問 5, 質問 6 は授業前より授業後、授業前より 1 ヶ月後、授業後より 1 ヶ月後の得点が高かった。質問 8 については分散分析では主効果が有意だったものも、多重比較ではどの群も有意ではなかった。

心肺蘇生法の内容についての意欲はどの質問も授業前より授業後の方が高かった。また、授業 1 ヶ月後も継続していた(表 5)。これらの結果から、本校で行っている心肺蘇生法の授業は、生徒の心肺蘇生に対する意欲を高めることに効果があったことが示唆される。そして、その効果について 1 ヶ月は継続していたと考えられる。

また、医療系の進路への関心に関する問いに対して「とてもある」「ややある」と回答した者を「関心あり」、「あまりない」、「まったくない」と回答した者を「関心なし」とした上で、心肺蘇生法への意欲について、医療系の進路へ関心 2 群および時期を独立変数とした二元配置混合計画の分散分析を実施した(表 7)。その結果、交互作用が有意となったのは「倒れた人に胸骨圧迫を行う」のみであった。 ( $F_{(2,190)} = 3.798, p < .05$ )

Holm 法を用いた単純主効果の検定の結果、医療系の進路への関心がない者は事前—1 ヶ月後間の得点差が有意な差ではなかった一方で、医療系の進路への関心がある者はそれらの得点の差が有意であった。ただし、いずれの得点差も

効果量は小さかった。

これらのことから、医療系の進路への関心がある、なしで、意識や意欲はほとんど変わらないことが示された。こども家庭庁が行っている「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和 4 年度)」の『あなたは「社会のために役立つことをしたい」と思いますか』の設問について、「そう思う」と答えた 13 歳の子どもは 38.1%おり、「どちらかというそう思う」の 45.8%を足すと 83.9%になる。約 8 割以上の子どもが社会貢献について前向きに考えていることが示唆される。このことから、医療系の進路に興味があるなしにかかわらず、社会貢献に対して前向きな生徒が多いため、差がでなかったのではないかと考えた。

単純集計では、医療系の進路に関心を持つ生徒は、授業前より授業後、授業後より 1 ヶ月後に少し増えていた。この授業が医療系への進路に関心を持つことに対して、影響を及ぼした可能性があるかもしれない。

表 5 授業前・後・1 ヶ月後の M・SD

項目	授業前		授業後		授業1ヶ月後	
	M	SD	M	SD	M	SD
助けてと言う	3.281	0.077	3.563	0.059	3.531	0.059
救急車を呼ぶ	3.063	0.091	3.490	0.071	3.385	0.075
AEDを持ってくる	2.229	0.092	3.260	0.076	3.104	0.087
呼吸を確認する	2.917	0.098	3.490	0.074	3.354	0.077
胸骨圧迫を行う	1.719	0.081	3.198	0.079	2.927	0.084
AEDを使用する	1.688	0.083	3.490	0.069	3.146	0.082
救急処置に関心がある	2.896	0.083	3.302	0.071	3.229	0.076
進路として医療系に興味がある	2.598	0.102	2.691	0.097	2.732	0.099

表 6 アンケートの多重比較

質問	事前<事後	事前<1m後	事後<1m後
質問 1	**	**	n.s.
質問 2	**	**	n.s.
質問 3	**	**	*
質問 4	**	**	n.s.
質問 5	**	**	**
質問 6	**	**	**
質問 7	**	**	n.s.
質問 8	n.s.	n.s.	n.s.

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$ , 1m後: 1ヶ月後

表 7 医療系進学関心 2 群の M・SD

項目		授業前		授業後		授業1ヶ月後	
		M	SD	M	SD	M	SD
助けてと言う	関心なし	3.341	0.113	3.591	0.087	3.500	0.088
	関心あり	3.245	0.103	3.547	0.079	3.547	0.080
救急車を呼ぶ	関心なし	3.091	0.135	3.455	0.105	3.318	0.110
	関心あり	3.057	0.123	3.528	0.096	3.453	0.100
AEDを持ってくる	関心なし	2.295	0.138	3.273	0.113	3.091	0.129
	関心あり	2.208	0.126	3.264	0.103	3.132	0.118
呼吸を確認する	関心なし	2.886	0.145	3.409	0.109	3.409	0.114
	関心あり	2.962	0.132	3.566	0.099	3.321	0.104
胸骨圧迫を行う	関心なし	1.659	0.124	3.318	0.117	3.114	0.123
	関心あり	1.811	0.113	3.113	0.106	2.792	0.112
AEDを使用する	関心なし	1.682	0.127	3.614	0.102	3.227	0.121
	関心あり	1.736	0.116	3.396	0.093	3.075	0.110

## 5. まとめと今後の課題

本研究は、本校が行っている心肺蘇生法の授業が生徒の行動や思考に影響があったのか、生徒の授業の様子や感想を分析した。その結果、生徒は、心肺蘇生の重要性や必要性について理解し、正しい知識や技術を習得する事に対する意欲を持っていることがわかった。また、自らがバイスタンダーとなることを現実的に捉え、自分ができる範囲での救命活動に参加したいと思っていることがわかった。そして、改めていのちについて考え、人間は誰でもいつ死ぬかわからないからこそ、協力し合って助け合うために、心肺蘇生や AED の使用について学ぶ必要があると考えていた。

次に、アンケートを授業前後と、授業1ヶ月後に行い、心肺蘇生法についての意識に変化がみられたかどうかについて分析した。心肺蘇生法についての意識は、授業後に高くなり、それは授業1ヶ月後も続いていた。

また、進路として医療系に関心あり、関心なしの2群に分け意識の変化に違いがあるかについて分析した。その結果、交互作用が有意となったのは、「倒れた人に胸骨圧迫を行う」のみであった。それ以外の項目に有意差はみられなかった。医療系へ関心を持つ生徒は、授業前より授業後、授業後より1ヶ月後に少し増えた。この授業だけが、医療系への進学について関心を高めたとはいいきれないが、中には心肺蘇生法の授業がきっかけになった生徒がいたかもしれない。

以上のことより、本校の心肺蘇生法の授業が心肺蘇生についての意識を高める効果があることが示唆された。また、本校の授業は、DVDを基に行っているため、他の中学校でも再現性は高いと思われる。講師や教材の準備等の問題もあるが、各地の心肺蘇生法を指導している協会や消防署、

医療系の学校等と連携を結び、実施することは多くの学びを生徒へもたらすことになると思う。

合わせて、今回のことを生徒が思い出しやすいように本校設置の AED の中に、授業で示したような心肺蘇生法のイラストや図を入れておいた。また、今後町中の AED ケースの中にも簡単な心肺蘇生法の図や動画につながる QR コードなどが付いていたら、市民が心肺蘇生に取り組みやすくなるかもしれないと考える。

本研究では、なぜこの授業が生徒にとって意欲や関心を高める内容となったのか、授業のどのあたりに効果があったのか、明確化できていない。これらに関しては、今後の課題とする。

## 6. 引用文献

深山元良(2017)50分間のBLS講習によるBLS技能および自己効力感への効果：中学生の自己評価による検討.城西国際大学紀要 第25巻第1号 125～138 ページ

清村紀子・鹿嶋聡子・時吉佐和子(2013)A 地域における中学生への CPR 教育に関する質的評価.日本臨床救急医学会雑誌 16 (5), 632-642, 2013

こども家庭庁HP.「こども・若者の意識と生活に関する調査」(令和4年度)

文部科学省:「中学校学習指導要領 保健体育編」(平成29年3月)

文部科学省HP.「学校安全の推進に関する計画に関わる取り組み状況調査」(令和3年)

日本学校保健会:「学校における心肺蘇生とAEDに関する調査報告書」(平成30年)

NPO 法人大阪ライフサポート協会 DVD 2016 たたかう救急アニメ救え！ボジョレー！！胸骨圧迫とAEDを学ぼう！